わかやま
ネットパトロール通信
vol.6

わかやま ネットトラブル 相談窓口
https://wakayama-netpat.com/
ネットトラブルに関する相談や資料ダウンロードができます

ネットリテラシー特集　情報モラルの土台となるインターネットの知識

ネット上のトラブルに気づいたら、どうする？

～こどもの SOS を見逃さず、適切な支援につなげるために～

グループ LINE での悪口、SNS への無断掲載、特定のこどもを名指しした「晒し」投稿。こうしたトラブルは、保護者や先生の目が届きにくいところで起こることがあります。

こどもが自分から話してくれるとは限りません。友達から相談を受けて初めて知ることもあれば、保護者や先生が偶然投稿を発見する場合もあるでしょう。

また、こども自身が被害を受けていなくても、友達のトラブルを知り、どうすればよいか分からず悩んでいることもあります。

大人に求められるのは、問題を発見してすぐに解決しようとすることだけではありません。**何が起きているのかを丁寧に把握し、こどもの安全と気持ちを守りながら、必要な支援につなげること**です。

1. こどもの話から、何が起きているのかを整理する

「友達が LINE で悪口を言われているみたい」「自分の写真を勝手に載せられた」。こどもからこうした話を聞いたとき、大人は心配するあまり、すぐに相手を特定したり、事情を問いただしたりしたくなるかもしれません。

しかし、最初に大切なのは、事実とこどもの気持ちを分けて受け止めることです。

例えば、「誰が何を投稿したのか」「誰が見ることのできる場所なのか」「現在も投稿が残っているのか」といった事実を、無理のない範囲で確認します。同時に「今、一番困っていることは何か」「どうなれば安心できそうか」と本人の思いにも耳を傾けます。

こどもから聞いた内容だけで判断できない場合もあります。分からないことを無理に結論づけず、必要に応じて学校や専門の相談窓口と連携しましょう。



2. 善意の行動が、被害を広げることもある

こどもが友達の悪口や晒し投稿を見つけたとき、「友達を助けたい」という気持ちから、その投稿を別の友達に送ったり、投稿者に直接抗議したりすることがあります。

また、保護者や先生も、事実を確認するために画像やスクリーンショットを関係者に共有したくなるかもしれません。

しかし、こうした行動が結果的に、被害を受けたこどもの情報をさらに広げてしまう場合があります。

大切なのは、証拠として必要な情報を適切に記録することと、多くの人に知らせることを区別することです。

投稿の URL や日時、内容などを必要に応じて記録し、共有する範囲は支援に必要な人に限定します。性的な画像など、内容によっては保存や転送自体に法的な問題が生じる場合もあるため、安易に複製せず、専門機関へ相談してください。

問題のある投稿を広めず、適切な相談先に情報を届けることも、こどもを守るための重要な行動です。

3. 相談してきたこどもだけが、当事者とは限らない

ネットトラブルの相談では、被害を受けた本人ではなく、友達や投稿を見つけたこどもから情報が寄せられることもあります。

例えば、「友達が悪口を書かれているけれど、先生には言わないでと言われた」という相談です。

この場合、相談してきたこども自身も、友達を守りたい気持ちと、約束を破りたくない気持ちの間で悩んでいるかもしれません。

大人は相談してきたこどもの気持ちも受け止めながら、被害を受けている本人の状況を確認する方法を考える必要があります。

相談を受けたからといって、すぐに本人の知らないところで話を広げることが望ましいとは限りません。一方、深刻ないじめや生命・身体への危険が疑われる場合には、本人の安全を優先して大人や専門機関が対応する必要があります。

4. こどもと一緒に、相談先を具体的に考えておく

ネット上のトラブルに対応する方法は、1つではありません。
学校内の人間関係に関わる問題であれば学校への相談、投稿の削除を求める場合は SNS 運営会社への通報や削除申請、対応方法が分からない場合は専門の相談窓口の利用など、状況に応じた選択肢があります。
保護者や先生がすべてを解決しようとする必要はありません。むしろ、必要な人や機関の力を借りながら、こどもが安心できる状態をつくることが大切です。
日頃から「何かあったら相談してね」と伝えるだけでなく、「友達のことで困ったときも相談していい」「誰かの投稿が気になったときも相談できる」と、具体的な場面を共有しておきましょう。
こどもが助けを求められる環境をつくることは、トラブルが起きてからの対応だけでなく、日常の関わりの中から始まっています。



「これは相談していい？」判断ワーク

～自分が困ったとき、友達が困ったとき、投稿を見つけたとき～

インターネット上で気になることが起きたとき、どこからが相談してよいことなのか、迷うことがあります。
今回は 3 つの場面から、自分ならどうするかを考えてみましょう。保護者や先生がこどもと一緒に話し合うことで、いざというときの行動を考えるきっかけになります。
正解を一つに決める必要はありません。「どうしてそう思うの？」と、理由も聞いてみてください。

CASE 1｜自分が困っている

友達が、自分の写真を許可なく SNS に投稿しました。「消してほしい」と言いたいけれど、友達との関係が悪くなりそうで言えません。

▶ 考えてみよう

- 自分だったら、どんな気持ちになる？
- どんな方法で解決できそう？
- 誰に相談できそう？

CASE 2｜友達が困っている

友達がグループLINEで悪口を書かれています。友達から「誰にも言わないで」と頼まれました。

▶ 考えてみよう

- 友達は、どうして誰にも言ってほしくないのかな？
- 友達の気持ちを大切にしながら、できることは？
- どんな場合には、大人に相談した方がよいと思う？

CASE 3｜問題のある投稿を見つけた

SNS で、同じ学校の子の写真と悪口が書かれた投稿を見つけました。その子と話したことはなく、本人が投稿に気づいているかも分かりません。

▶ 考えてみよう

- 自分に関係のない投稿でも、相談していい？
- 投稿を広めずに、できることはある？
- 誰に、どんなことを伝えればよいだろう？



最後に考えてみよう

「自分が相談できそうな人」は誰ですか？

家族、学校の先生、スクールカウンセラー、ネットトラブルの相談窓口など、身近な人や相談先をいくつか考えてみましょう。

大人へのポイント

こどもがどんな答えを出したとしても、すぐに否定せず、その理由を聞いてみましょう。
「友達に知られたくない」「先生に相談すると大ごとになりそう」など、相談をためらう気持ちが出てくるかもしれません。
そんなときは、「どうすれば安心して相談できそう？」「一緒に相談するならどうかな？」と問いかけてみてください。
このワークの目的は、相談すべきかどうかを正しく判定することではありません。**困ったときに相談するという選択肢を持ち、安心して助けを求められるようになること**が大切です。

＃保護者からの相談　＃オンラインゲーム　＃ネットでのつながり



心理 Q 最近、こどもがオンラインゲームで知り合った相手と毎日やり取りをしています。「この人は分かってくれる」と話していますが、実際には会ったことがありません。なぜ会ったことのない相手を、身近な人以上に信頼してしまうことがあるのでしょうか？

＜心理学の視点から見たこどもたちの気持ち＞

1. オンラインでは、本音を話しやすくなることがある　インターネット上では、対面では言いにくいことを話したり、普段はしない行動を取ったりしやすくなることがあります。これを「オンライン脱抑制効果」といいます。
自分が誰なのか知られにくい匿名性と、相手の表情や反応が対面よりも分かりにくいことから、緊張やためらいが和らぎ、身近な人には言えない悩みや本音を打ち明けやすくなると考えられています。
オンライン脱抑制効果は、自分を表現できる場として良い方向にはたらく場合もあります。しかし、相手を過度に信用してしまったり、感情の抑えが効かず攻撃的な言葉をぶつけたりすることにもつながります。





2. 共通点や一緒に過ごす体験が、親しさを育てる (類似性の法則)　人には、自分と共通点のある相手に親近感や好感を抱きやすい傾向があります。考え方や好みが似ていると、「自分を分かってもらえそう」「否定されずに話せそう」と感じやすくなります。同じゲームで協力したり、教え合ったりすることも、仲間意識を育む体験です。会ったことがなくても、こうしたやり取りを日々重ねることで、心理的な距離が縮まり、信頼が深まることがあります。

3. 見えない部分を、好ましいイメージで補うことがある　オンラインでは、相手の日常や、ほかの人への接し方などが見えにくい場合があります。そのため、分からない部分を自分にとって好ましいイメージで補い、相手を理想化することがあります。印象を確かめ直す機会が少ないと、「自分を理解してくれる理想の相手」というイメージが強まることもあります。





4.「分かってほしい」「仲間でいたい」という気持ち　「自分を理解してほしい」「受け入れてほしい」という気持ちが満たされると、相手への安心感や信頼感が強まります。特に思春期は、さまざまな面で自己肯定感が揺らぎやすく、家庭や学校以外にも自分の居場所を求める傾向があるといえます。

＜対応のポイント＞

Point 1

頭ごなしに否定せず、こどもの気持ちに関心を向ける

大人から見ると「なぜそんな人を信頼するのか」と感じることもあるでしょう。しかし、その思いを最初に伝えると､こどもは｢自分の判断を否定された｣と感じ、困ったことが起きても相談しづらくなることがあります。
まずは、その相手を大切に思う気持ちを受け止めましょう。「どんなところで分かってくれると感じるの？」「どんな話をしていると楽しい？」などと尋ね、こどもの安心感や信頼感がどこから生まれているのかに関心を向けることが大切です。

Point 2

こどもが何を求めているのかを知る

毎日やり取りをし、身近な人よりも相手を信頼している様子の背景には、身近な友達には話せないことや、自分をのびのびと表現できない状況があるのかもしれません。また、自分を認めてもらえる場や、何かを共有できる仲間を求めていることも考えられます。
「その人と話すことで、どのような気持ちが満たされているのだろう」と想像しながら話を聴くことが、こどもの求めているものを知り、理解することにつながります。

Point 3

「信頼できると感じること」が「安全」とは限らないと伝える

こどもの気持ちを尊重したうえで、相手について分かることが少ないため、親として心配もあることを伝えましょう。相手を信頼することと、安全かどうかを判断することには違いがあり、自分を守るための手立てを持っていてほしいという思いも伝え、オンラインでやり取りするときの具体的なルールを一緒に考えてみてください。大人が一方的に決めるよりも、「どうすれば自分も周りも安心できるか」を本人に考えてもらうことで、自分のこととして捉えやすくなるかもしれません。

住所や写真などの個人情報は送らない、金銭のやり取りはしないといったルールも、「制限や批判のためではなく、安心して見守りたいからこそ、守ってほしいこと」として伝えると、受け入れやすくなると考えられます。



a spoonful of sugar
公認心理師・臨床心理士
浅井 育子 先生

田辺市上屋敷でカウンセリングルームを主宰。病院での勤務経験やスクールカウンセラーの経験を生かし、ひきこもり・不登校などの課題の解決に向けたカウンセリングを実施している。

Point 4

現実の人間関係や居場所も大切にする

こどもが求めているものを理解し、実生活の中でも満たしていく方法を一緒に考えたり、気持ちを受け止めたりすることで、オンラインの相手の存在が相対的に小さくなることがあります。

オンラインでも実生活でも、人とのつながりは本人にとって大切なものです。まずは「人とつながりたい」という気持ちを肯定しましょう。そのうえで、選択肢を増やし、世界を広げていくためにできることがあれば応援したいと伝えてください。

「何かあったときは一緒に考えるから、相談してほしい」という姿勢で関わり、こどもが困ったときに SOS を出しやすい関係をつくっておくことも大切です。



出張情報モラル講座



講座日	学校名	講座内容	対象生徒の学年	人数
9/3	和歌山県立新翔高等学校	SNSなどのコミュニケーション	高校1～3年生	150名（教職員20名）
9/25	和歌山県立日高高等学校附属中学校	犯罪やトラブルの防止	中学1～3年生	108名（教職員10名、保護者）

9 月は 2 校で講座を行いました。昨年度に続いてご依頼いただいた学校から、「情報モラルについて、こどもたちが繰り返し学べる機会を設けてほしい」という声をいただきました。

インターネットや SNS を取り巻く環境は日々変化し、こどもたちが直面するトラブルも変わっています。一度学んで終わりにせず、繰り返し学びながら、身近な出来事と結びつけて考える機会が大切だと感じています。

これからもこどもたちが「自分にも関係のあること」として考え、学んだことを生活に生かせる情報モラル教育に取り組んでいきたいと思います。

情報モラル講座のご案内

限定 80 講座

こどもたちが主体的に考えられる分かりやすい情報モラル講座を出張開催します。

対象者 県内学校の児童・生徒　費用 無料

講習時間 40～60 分程度　※学年により要相談

ワークショップのご案内

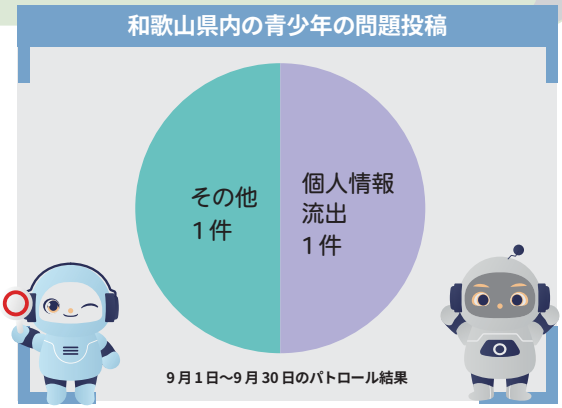
限定 20 校

講座開催後に「ワークショップ」を行います。コミュニケーションなど、正解が一つではないテーマについて、グループで対話しながら考えます。

小学校・中学校・高校・支援学校からのお申し込みをお待ちしております

ネットパトロール報告　2026年9月度調査報告

2026年9月のネットパトロールで発見された問題投稿アカウントは1件、問題投稿件数としては2件。その内訳は個人情報流出が1件、その他が1件です。
個人情報流出では、学校の体操服に書いてある名前が分かるものが投稿されていました。また同じアカウントの投稿で、校舎と見られる場所で複数人が机の上に乗って撮影したものが見つかっています。
問題投稿件数として発見されるものは以前と比べ減っていますが、問題が表面化しなくなってきていることも原因の一つとして考えられます。



編集部のまなびノート

最近よく聞く「ニコパフ」、気になったので調べてみました。

SNSで検索してみるとニコパフを販売しているアカウントがたくさん出てきました。個人輸入をサポートするものもありますが、単純に販売しているものが多くありました。「〇〇(地域名) ニコパフ販売してます、詳細は dm まで」「地名＋手押し、全国郵送可」などが書かれています。テレグラムの URL が記載されているものもありました。
そもそも、ニコパフについては、法律で販売、譲渡が禁止されています。ニコチンが含有されていることから、青少年が吸うとタバコと同じく脳や体への悪影響があるため、吸うべきではありません。調査を続けると、やはり多くのアカウントに違法薬物の隠語を見つけました。中には隠語を使い、闇バイトに誘おうとしているものもあります。
ニコパフという入口からさらに犯罪や闇バイトに巻き込もうとしている。そんなふうに若者を狙う現状を目にすると、大人として危うさを感じずにはいられません。「ニコパフ吸いまくってる」と書いてあった投稿には「od したいけど我慢してる。安全に気持ちよくなる方法ほしいよね」などのコメントもありました。ネット上でこうした製品や隠語に関心を寄せる背景には、現実の生活の中で何かから逃れたいような、深い悩みやストレスがあるのかもしれません。
身近に見かける若者たちのなかにも、もしかしたら同じように悩みを抱えている人がいるかもしれません。大人の一員として、こどもたちが犯罪や危険に巻き込まれるのを防ぎたいものです。たくさんの若者がいろんなことに悩んでいる。そのことを少しでも意識しながら身の回りを見てみる。「最近どう？」「何か困ったことはない？」と、何気なく声をかけてみる。そういった周囲への気づきや見守りから始めてみたいと感じました。

ネットトラブル相談窓口



24時間、チャットbotで相談いただけます！

ネットトラブルの相談窓口を開設しています。ウェブサイト右下のリラちゃんのボタンからチャットを行うことができます。24時間、チャットbotが自動で対応するため､気軽に相談ができます。平日15:00～19:00には希望すれば相談員とお話しすることも可能です。

インターネット上での こんなことを相談いただけます！

- ◉アカウントを乗っ取られた
- ◉暴力的な表現の投稿を見つけた
- ◉無断投稿を削除してほしい
- ◉危険な行為の投稿を見つけた
- など

先生方や保護者、支援機関からの情報提供・相談も受け付けます。



わかやま ネットパトロール通信

令和8年度「青少年ネット安全・安心のための環境整備事業実施業務」
企画・制作：TETAU 事業協同組合

お問い合わせ

TETAU 事業協同組合
050-5536-9139（平日 10:00～16:00）
netpat@tetau.jp（担当：森脇・信貴・中村）

和歌山県 共生社会推進部 こども家庭局 こども支援課
TEL：073-441-2502　FAX：073-441-2491
メール：e1104001@pref.wakayama.lg.jp